

SAPPORO AINU PRODUCTS

札幌市
アイヌ民工芸品作家
×
企業コラボレーション

本プロジェクトで製作したストール、陶器、トートバッグは
「札幌アイヌデザイン認証」認定品です



札幌アイヌデザイン認証制度とは

札幌アイヌ協会とその協力者が望む未来を構築できるプラットフォームとして、商品開発の背景・本質やその製品・サービスにアイヌ民族の声が反映されていることを保証し、他商品との差別化を図るための制度です。多岐にわたるアイヌ民族の文化的財産を世界に向けて幅広く発信し、北海道の地域資源としてのブランディングを進めます。

札幌アイヌデザイン認証取得商品(例)



アイヌ文様スカーフ

アイヌ文様刺繍作家によるデザイン提供を行い、アイヌ文様スカーフを完成させました。



イランカラッテ・コーヒーラベル

アイヌ語の挨拶「イランカラッテ」を北海道ではおもてなしの言葉として発信しています。この言葉の普及とアイヌ文化を広めたいという思いを込めて、コーヒーラベルに使用しました。



札幌フラワーカーペット

花びらや自然素材を広場に敷き詰め、色とりどりの絵を制作しました。3年間にわたりアイヌ文様のデザインを提供し、美しいカーペットが完成しました。

札幌アイヌ協会

札幌市南区小金湯27 札幌市アイヌ文化交流センター(サッポロピリカタン)

TEL 011-596-1610 FAX 011-596-1611

SAPPORO AINU PRODUCTS LIFE

現代の暮らしの中に息づくアイヌ文化を。

札幌市では、

現代の消費者ニーズに沿ったアイヌ関連商品の開発を支援し、

アイヌ民工芸品ブランドの付加価値を高めるとともに、

生産設計やデザイン監理などの商品開発に係る一連のプロセスを

モデルケースとして紹介することで、

今後の商品開発の促進につなげていくことをめざしています。

このプロジェクトのコンセプト

- アイヌ民工芸品の魅力を伝える新しい商品の創出
- 量産型の商品開発による民工芸品販売の裾野拡大、安定的な生産体制の確保
- 札幌に拠点を置く事業者とのコラボレーションによる「売れる」ものづくり
- 若い世代の担い手の育成

札幌市市民文化局市民生活部アイヌ施策課
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎13階
TEL 011-211-2277 FAX 011-218-5153

SAPPORO



「アイヌ文化を身近に感じられるように」との思いを込めて、

アイヌ民工芸品作家と企業がコラボレーション。

アイヌ
民芸品作家と
企業の
コラボレーション
について、
3つのモデルケースを
ご紹介します。

SAPPORO AINU PRODUCTS

MODEL CASE

デザインアドバイザー
「アイヌ民芸品作家のものづくり」と「パートナー
企業の技術」を現代的デザインと融合し商品開発
を行うアドバイザーとしてサポート



Kotaro Ishigami 石上光太郎

1974年釧路市阿寒町生まれ、札幌市在住。
アートディレクター・グラフィックデザイナー。広告制作会社を
経て、2016年よりフリーランスとして活動。
母が白糠出身でアイヌ民族にルーツを持つ。自身は札幌を
中心に各地のアイヌの伝統儀式に参加。アイヌ文様をあし
らったポスターやチラシなども制作。

早坂 ユカ

旭川にてアイヌ民芸品店を営む両親のもとで、幼い頃からアイヌ文化に触れて育つ。
母から受け継いだアイヌ刺繍をはじめ、「アイヌ・アート・プロジェクト」の一員として音楽活動
に参加するほか、国内外でアイヌ古式舞踊の表現の舞台に立つ。
アイヌ伝統工芸展優秀賞(2017年)。北海道アイヌ協会優秀工芸師。

YUKA HAYASAKA

#1

cloud9

ス ト ール

株式会社 cloud9

国内外の提携企業と連携しながら、オリジナル・ユニフォームのデザイン・企画・制作、
企業や商品などのブランディング・プロデュースを行っている。
近年の主な実績に、ウポボイ(民族共生象徴空間)、ニセコ・定山溪・台北のホテルユニフォームのオリジナルデザイン・制作。
アイヌ文様を用いたアパレルブランド「mina an ikor(ミナ アンイコル)」共同企画・デザイン・制作など。



結城 幸司

1964年、釧路生まれ。版画、木彫、音楽活動、語り部など。
「アイヌ・アート・プロジェクト」代表を務める。札幌市南区「八剣山ギャラリー」に常設展示が
あるほか道内外にて個展・グループ展多数。アニメーション「七五郎沢の狐」原画、原作。
雑誌掲載多数。グラノー(スウェーデン)にてモニュメント制作。

KOJI YUKI

#2

SORA KOBO

陶 器

宙 工 房

陶芸家・川口英高。1976年から陶芸を始め、1984年に独立。
1986年、札幌市円山に宙工房設立。以降、個展、グループ展、レリーフ製作などを行う。
1994年、小金湯の現在地へ。2005年、ものづくり集団 Sapporo craft TAG の
結成に参加し、道内作家の作品を全国に発信する活動も行っている。



一般社団法人 札幌大学ウレシパクラブ

2010年に札幌大学に導入されたウレシパ・プロジェクトの推進母体で、ウレシパは「育てあう」という意味。
アイヌの若者たちに奨学金を給付し大学進学を拓く「ウレシパ奨学生制度」や、
和人ははじめ様々なルーツを持つ学生たちが一緒にアイヌ文化を学ぶことで
多文化共生のモデル創出を目指している。

URESPA CLUB

#3

SAPPORO DRUG STORE

ト ー ト バ ッ グ

株式会社 サッポロドラッグストアー

1972年、医薬品・化粧品等の販売を目的として札幌市にて創業。
現在は北海道を中心に約200店舗を展開。2016年には柔軟でスピード感のある
経営を行うためホールディングス体制へ移行した。グループのビジョンである
「地域コネクティッドビジネス」を推進し、北海道の人々の豊かな生活を追求している。



MODEL CASE #1

ストール

Advice by Ishigami デザインアドバイザー 石上光太郎の視点

刺繍作品を単純にデータ化しただけでは趣が失われてしまう場合があるので、アイヌ刺繍の特徴でもあるステッチ(オホ、イカリ等)を活かしたデータ起こしを心がけました。デザインに立体感をもたせることを意識しつつ、布地に印刷する際にディテールが潰れないよう簡略化も行いました。

PROCESS

製作過程



STEP2 デザイン検討

デザイン案を見ながら色、パターンについて意見交換。異なる文様で2種類の試作品を作成することに。

ストールのサイズを確定し、広げたとき・結んだときの文様の出方などを想定しながら、模様配置や素材感の確認。

峰江さんより、文様を使ったデザインのアクセントやバランスのアドバイスも。

STEP1 顔合わせ・方向性決定

刺繍作家とアパレルメーカーのコラボレーションで何をつくるか。協議の結果、ストールを試作することで決定。

サイズ感と素材については「大判で使い勝手のよいもの」で合意。早坂さんの刺繍作品をもとに、石上さんがストールのデザインを行うことに。



STEP3 サンプル確認

厚さの異なる2種の布地に4パターンのデザインを印刷したミニサンプルを確認。素材感、色味、デザインの実現性などから布地を1種類に絞り込む。また、4種のミニサンプルを並べて1枚にするとデザインとして面白みがあることを早坂さんが発見。新デザインとして進めることに。



STEP4 試作品完成

巻いた時に、多彩な表情となる2種の試作品が完成。全員が納得の出来に。

アイヌのアートを、
いつものファッションに。
個性豊かながらも
使いやすいアイテム。

アイヌ刺繍作家 早坂ユカ



海外では先住民族の伝統的な工芸品や文様が様々なところで見られますが、日本で、しかも札幌市内でアイヌ文様を目にするのは多くありません。このストールをたくさんの方々が手に取って、アイヌ文様の意味や美しさを知っていただけたら嬉しく思いますし、札幌にたくさんいるアイヌ文化伝承者にもこのような事例を伝えていきたいです。私はこれまで刺繍で自身の世界を表現し、個人でモノ作りをしてきましたが、チームで取り組むという今回の経験は、とてもよい刺激となりました。

PRODUCT

完成試作品

①ドレブ* ②Snow crystal

素材/ポリエステル サイズ/1700×900mm

老若男女を問わずに使えるストール。季節やTPOに合わせて、結び方によって多彩な表情が楽しめるデザイン。結びやすく巻きやすい、しっとりした肌触りの素材もポイント。

- ①は配列された文様が花、特にアイヌ文化で大切な植物であるドレブ(オオウバユリ)を彷彿させることからネーミング。
- ②は雪の結晶をモチーフに、4種のパターンを組み合わせたデザイン。

*「ド」はアイヌ語特有の表記で「トゥ」と発音。

刺繍という手作業の繊細な部分を表現するにあたって、デザインデータの色の合いなどできるだけ忠実に布地に再現することに注力しました。また、平面のグラフィックを立体として身につけたときに生まれる表情や効果も考慮しています。今回のコラボレーションで、アイヌ文様のプロダクトデザインには無限の可能性があるとあらためて感じました。アイヌ文化に対する敬意を持ちつつ、アイヌ文様を「北海道デザイン」としてブランディングしていくことが大切ではないでしょうか。



デザインカンパニー cloud9 峰江卓也

MODEL CASE #2

陶器

アイヌアートと
日本の伝統工芸
「陶器」を
掛け合わせた
新たな試み。

Advice by Ishigami デザインアドバイザー 石上光太郎の視点

版画の力強いタッチやかすれ等を表現できればと思い、レーザー加工用データを作りました。結城さんの柔軟性のある発想と、川口さんの陶器の表現方法が組み合わせ、とてもユニークな商品ができたと思います。陶器などで版画やアイヌ文様を表現する新しいアートの可能性も感じることができました。

PROCESS

製作過程



STEP 1

顔合わせ・方向性決定

アイヌ文化と日本の伝統工芸である「陶器」を掛け合わせ、アイヌ文化と関連の深い「自然との共生」を表現できる作品を目指すことで合意。
宙工房で販売されている現行商品について情報共有。ラインナップの中にあつた、北海道の自然をイメージした商品とのコラボレーションについて検討を進めることに。

STEP 2

製作品の確定・製作技法の検証

結城さんの版画作品を、石上さんがデザインとしてデータ化。
陶器へのデザイン表現について最適な方法を見つけるために、様々な手法を試すことに。
製作する試作品については、豆皿2~3種、角皿1~2種、マグカップ1種で決定。

STEP 3

新たな製作技法の検証

様々な技法を検証した結果、石上さんがレーザーカッターで作成したステンシルを使い、川口さんが呉須で絵付けを行う製作技法が、結城さんの版画の味わいを最も表現できるといふことで合意。

STEP 4

試作品確認

豆皿3種(1セット)、角皿2種、マグカップ1種が完成。
表情の異なる作品を、一つずつ丁寧に確認し、試作品を選定。



PRODUCT

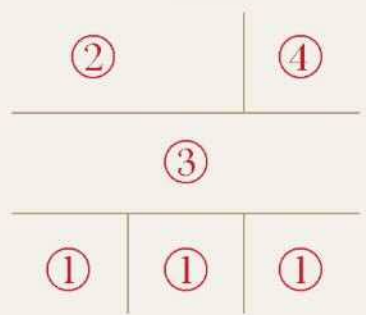
完成試作品

- ① 豆皿セット ポン オルシベ*
- ② 角皿 ワツカウ シカムイ*
- ③ 角皿 ニタイ オルシベ
- ④ マグカップ ニタイ オルシベ*

- ①・・・直径12.5cm(1枚)
- ②③・・・長辺25.5×短 辺13.0cm
- ④・・・直径8.5×高さ10.5cm

普段の暮らしの中で、肩肘張らずに使いやすい器のラインアップ。
アイヌ文化の神話性をベースに、北海道の大地、自然に思いを馳せたくなることを目指したデザイン。
絵付けはステンシルで行っているものの、1個ずつ表情が異なるのも手仕事ならではの。

*・ポン オルシベ=小さな物語 ●ワツカウシカムイ=水の神 ●ニタイ オルシベ =森の物語



版画家・造形作家 結城幸司



カムイ(神)たちの世界を物語に紡ぐことで生み出してきた、自然に対する敬意。そのようなアイヌが伝承してきた想像力を、この時代の中で表現したいと考えました。たとえば、熊のデザインがありましたが、カムイというだけでなく、「札幌は熊も共生している都市なんだ」という話もできるような。川口さんとは北海道の自然を愛しているという点で重なっていましたし、石上さんは僕らだけでは不可能な部分を現代的な知性をもってクリアしてくれました。とても意味のある「コラボレーション」になったと思います。

宙工房 川口英高



アイヌ文化ということとは特に意識せず「結城さんとのコラボ」という感じでした。結城さんの作品の世界観を表現することを心掛け、器の形はシンプルな形状・デザインにしました。私自身、他の作家のデザインとの共同作業はほぼ初めての経験でしたが、チームで方法論を考えたり、新しい技法の開発ができて楽しい体験でした。結果的に上手く融合して完成度の高い作品になったのではないかと思います。今後もこのような事業の機会があれば北海道の工芸・美術で面白い作品が生まれるでしょう。

Advice by Ishigami デザインアドバイザー 石上光太郎の視点

岩谷さんの北海道、樺太、千島、東北をデザインした案、小林さんの伝統的な工芸作品をモチーフにしたシンプルな案、結城さんの伝統的なオリジナル文様デザイン案、三者三様の商品が仕上がったと思います。アイヌ刺繍や木彫の作家さんにも、PC等のデジタル機器を利用することで表現の幅が広がることも知ってもらいたいと思います。

MODEL CASE #3

トートバッグ

アイヌ文様や
伝統工芸品から
ヒントを得たデザインを
日用品として気軽に使える
トートバッグに。

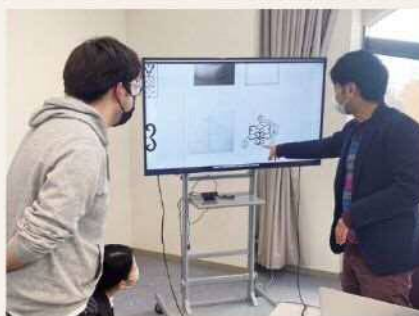
PROCESS

製作過程



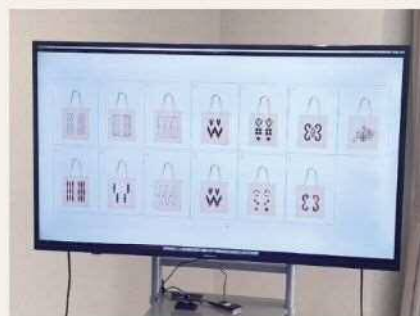
STEP1 コンセプト検討

ウレシバクラブが「アイヌ文様をオシャレの
一環として持ってもらえるような日用品を」
というコンセプトをまとめる。
サッポロドラッグストアにて実現性がある
商品の選定と仕様を確認。また、販売
時の価格設定や製作ロット数を確認。



STEP2 顔合わせ・製作品の検討

両者で様々な商品サンプルを見て
いきながら、実際に製作するアイテム
をトートバッグに決定。
素材や印刷範囲、使用
可能な色などを確認。



STEP3 デザイン検討・確定・データ入稿

ウレシバクラブの3人がそれぞれの思い
を込めてオリジナルデザインを作成し、
石上さんがデータ作成。
デザインの大きさやバランス、
消費者ニーズを考慮しながら
ブラッシュアップ。



STEP4 試作品確認

トートバッグ5種が完成。
利用シーンや消費者の好みにも合わ
せ色々な方に受け入れられる商品と
なり、一同、納得の仕上がりに。

一般社団法人 札幌大学ウレシバクラブ

岩谷実咲(左)・小林幸太郎(中)・結城陸(右)



アイヌ文様の特徴である繊細で緩やかな
一筆書きを生かしたデザインにしたいと思
いました。このようなプロダクトをきつかけ
に、アイヌ文化への理解が深まってほしい
と考えています。(岩谷)

アイヌ文化の伝統を現代のデザインの観
点から見たものへ昇華させることを目指
しました。皆さんのご協力もあって私の当
初の構想以上に親しみを持っていただ
けるデザインになったと思います。(小林)

伝統と私たちの世代の感覚を混ぜ合わせ
て、若い人たちが使いやすいデザインを心
がけました。アイヌ文様をベースにしたデ
ザインといっても多様な可能性があること
を実感し、今後の創作活動にも刺激を受
けました。(結城)

PRODUCT

完成試作品

Urespa pukuru ウレシバブクル*

素材/綿100% サイズ/36×36×11cm
アイヌ文様をベースとすることは共通して ながらも、バラエティ豊かなデザイン。
サツドラを訪れる幅広いお客様が、それぞれの感性や好みに合わせてチョイスし、
手に取りやすいようなラインナップを目指した。

- ① アイヌ伝統の着物の背面と札幌を象徴する山 からヒントを得た、スタイリッシュなデザイン(結城)
- ② 左右対称が多いアイヌ文様を、左右非対称で デザイン。北海道に加え、かつてのアイヌの居住地
樺太、千島、東北をイメージ(岩谷)
- ③ アイヌ文様に色を乗せデザイン(小林)
- ④ 伝統工芸品エムシアツ(刀下げ彫)をモチーフに デザイン(小林)
- ⑤ 伝統工芸品のイタ(盆)をモチーフにデザイン (小林)

*ウレシバは育て合う、ブクルは縁という意味。

「少しでも多くのお客様に知っていただ
き、実際に使っていただけのような商品
に」ということを重点的に考えました。売
場に陳列されるイメージを大切にしながら
ら、デザインの見え方や、ベースとなる
トートバッグの色にも配慮が必要であ
ると感じました。この点はプロジェクトに
関わる方々とブレストを行いながら、プ
ランニングアップを継続して行っていきたく
と考えております。この事業を通じてアイヌ
デザインプロダクトが広く浸透していくこ
とを願っています。

株式会社 サツポロドラッグストア
商品部ホーム担当バイヤーマネージャー 富樫祐介